

俳句

にし
おとうし
西尾桃支

下関市
(1895～1978)



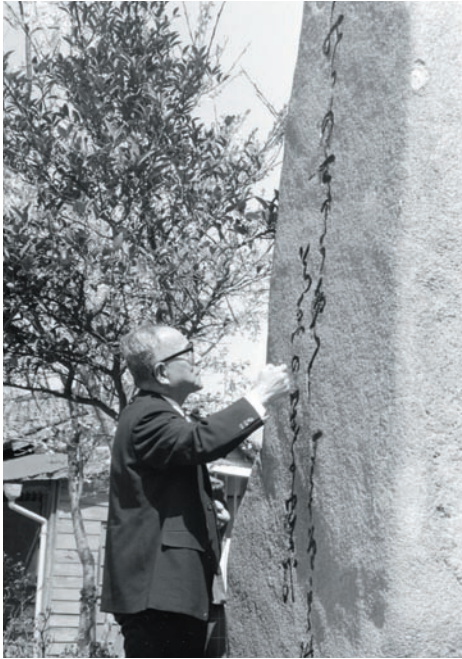
【著作】

句集『子の血汐』（其桃追悼句集 昭和7）
『暗水』（昭和41・其桃発行所）
句集『西尾桃支全句集』（昭和57・其桃発行所）

西尾桃支は明治二十八年（一八九五）兵庫県明石郡大蔵谷の富永久三郎の三男として出生。下関の西尾家の養子となり、大正七年（一九一八）九州帝国大学医学部を卒業して医業を継いでいる。昭和六年（一九三一）に父其桃が白浜で客死した為、父の遺志を継いで昭和七年（一九三二）十月、亡父の俳号を誌名とした俳誌『其桃』を創刊した。創刊時は会員も多く、台湾、朝鮮等を含め全国に及び、地方誌としては千部を超える異例の発刊部数であった。編集長の東桃園は亡父其桃の友人でもあり、旧制山口中学の国語・歴史・絵画の教師を経た博学の人であり、『其桃』の推進役を果たした。桃支は創刊の辞に「各人の個性を重んじ自らの俳句の確立を求む」と述べ、当初の連句研究から次第に現代性のある俳句へと展開していった。

昭和十七年（一九四二）二月には戦雲拡大の為休刊したが、昭和二十一年（一九四六）復刊第一号（通巻一三〇号）を発行。昭和三十一年（一九五六）日和山に「鷗とぶ春の潮の秀にふれて」という桃支句碑を建立。其桃社として山口県芸術文化振興奨励賞を受賞。昭和三十二年（一九五七）には下関俳句協会を結成。十一月三日会長として第一回文化祭市民俳句大会を開催。昭和三十九年（一九六四）山口県俳句作家協会が設立され、会長として第一回山口県芸術祭山口県俳句大会を下関市で開催。昭和四十四年に桃支は「山口県選奨」を受賞。桃支は絶えず其桃会員の作品の充実に力を致し、中央から、石原八束、原子公平、金子兜太、井本農一、飴山実等の諸先生、又地元の佐藤泰正先生等を講師として大会に招いた。著書にも『桃支第一句集』『凡』『無緑』『花径百題』『暗水』『現代俳句評釈』がある。多芸の人で、長唄杵屋流の名取。下関邦楽協会会長。南画を良くし、故東桃園グループの後素会を指導。昭和四十五年（一九七〇）国際ロータリー第三六九地区ガバナー。昭和四十六年（一九七一）四月勲五等瑞宝章を受章。内助の功の厚かった俳人西尾探菊夫人が昭和五十二年（一九七七）に没し、後を追うように昭和五十三年（一九七八）三月十四日病没。没後『西尾桃支全句集』刊行。『其桃』は西尾豊・中村石秋と継承、十八年三月号七三四号。平成九年（一九九七）山口県文化功労賞を受賞。

（文・中村石秋）



西尾桃支 其桃句碑（日和山公園）の墨直し（下関市）



日和山公園桃支句碑（下関市）

鷗とぶ春の潮の秀にふれて

鷗とぶ春の潮の秀にふれて
麦刈れば野の相貌のつかれゆく
月見草わが郷愁の水はながれ
蟹ありく庭の千草に紅うつり
落柿舎の柿の空ふる鰯雲
海のかぜ華鬘にゆらぎ河豚節会
這ひすすむ山火に風の道しりぬ
潮流れ名月流れ壇之浦
冷房ロビー扇を使ふ人のあり
風花のつもりし雪に消えうせる

（『西尾桃支全句集』昭和57年4月18日 発行者・西尾豊）

西尾桃支 年譜

（提供・中村石秋）

明治28（一八九五）年		10月25日、兵庫県明石郡（現・明石市）大蔵谷の富永久三郎の三男として出生。下関の西尾家に養子となる。九州帝国大学医学部卒業。同大学院卒業。内科医。医学博士。	昭和39（一九六四）年	六九歳
大正7（一九一八）年	二三歳	4月8日、父其桃が白浜にて客死。	昭和41（一九六六）年	七一歳
昭和6（一九三一）年	三六歳	4月、日和公園に其桃句碑建立。	昭和42（一九六七）年	七二歳
昭和7（一九三二）年	三七歳	10月、俳誌『其桃』創刊。西尾桃支主宰となる。創刊時の其桃は誌友が多く、台湾・朝鮮・対島・淡路島・静岡・水戸・北海道・名古屋・四国等全国に及び千部を超える発行部数。編集長・東桃園。	昭和44（一九六九）年	七四歳
昭和21（一九四六）年	五一歳	戦争の為、昭和17年休刊。21年7月復刊。（通巻一三〇号）。	昭和45（一九七〇）年	七五歳
昭和30（一九五五）年	六〇歳	4月17日、光明寺にて墨直し句会。10月、『桃支第一句集』刊行。	昭和46（一九六七）年	七六歳
昭和31（一九五六）年	六一歳	日和山に桃支句碑除幕式『鷗とぶ春の潮の秀にふれて』。其桃社として「山口県芸術文化振興奨励賞」受賞。	昭和47（一九七二）年	七七歳
昭和35（一九六〇）年	六五歳	4月10日、墨直し俳句大会。石原八束氏招待。講演「現代俳句の混乱に就て」。11月10日、時雨忌俳句大会。原子公平氏講演「芭蕉と現代俳句」。	昭和48（一九七三）年	七八歳
昭和37（一九六二）年	六七歳	5月6日、西尾探菊句集『さく』出版記念会。其桃創刊三十周年記念大会。合同句集『桃影』第一輯発刊。石原八束・原子公平氏招待。	昭和49（一九七四）年	七九歳
			昭和50（一九七五）年	八〇歳
			昭和52（一九七七）年	八二歳
			昭和53（一九七八）年	八二歳
			昭和57（一九八二）年	

4月、其桃叢書第七輯、桃支句集『凡』発刊。井本農一氏、桃支宅訪問。
1月、東桃園長逝。三五周年記念大会。石原八束氏招待。『桃影』第二輯刊。
桃支文集『暗水』発刊。冠頭言・紀行文・随筆を収める。「山口県選奨」を受賞。
7月、国際ロータリー第三六九地区ガバナー。桃支句集『無緑』刊。
4月、勲五等瑞宝章を受章（地方文化に功労）。
10月、創刊四十周年記念俳句大会、石原八束氏招待。講演「季語の効用と現代俳句」、西尾桃支文集『花径百題』発行。合同句集『桃影』第三輯発刊。9月、支笏湖・洞爺湖。12月、出水・指宿旅吟。
5月、京都・鳥取砂丘。6月、下部温泉。8月、立山黒部アルペンルート旅吟。11月、時雨忌俳句大会・関門橋開通記念会出席。「血液型と気質」桃支講演。和田健氏招待。「句碑にみる人間像」と題して講演。
4月、箱根より南伊豆へ旅吟。8月、三瓶山。11月、岐阜へ旅吟。11月、ロータリー会合のため上京。11月、時雨忌俳句大会。講師に太田静一氏を招待。
4月、墨直し俳句大会に飴山実氏「俳句のデッサンについて」講演。
5月、新潟・岡山（其桃創刊同人片平天城氏を訪う）、箱根・伊豆旅吟。6月、谷川岳。7月、城島高原。9月、雲仙。10月、十和田湖及び六甲山と有馬温泉旅吟。11月、時雨忌俳句大会に福田百合子氏を講師に招待。
4月、墨直し俳句大会及四五周年記念俳句大会。7月28日、西尾探菊夫人病没。7月31日、葬儀（石原八束氏葬儀参列）。11月23日、探菊追悼句会並に時雨忌俳句大会。石原八束氏講師として招待。岡山より片平天城氏出席。12月29日、其桃創刊同人且編集長二階堂支草氏病没。3月24日、桃支腹部動脈瘤破裂の為急逝。葬儀に石原八束氏参列。

4月、『西尾桃支全句集』刊行。